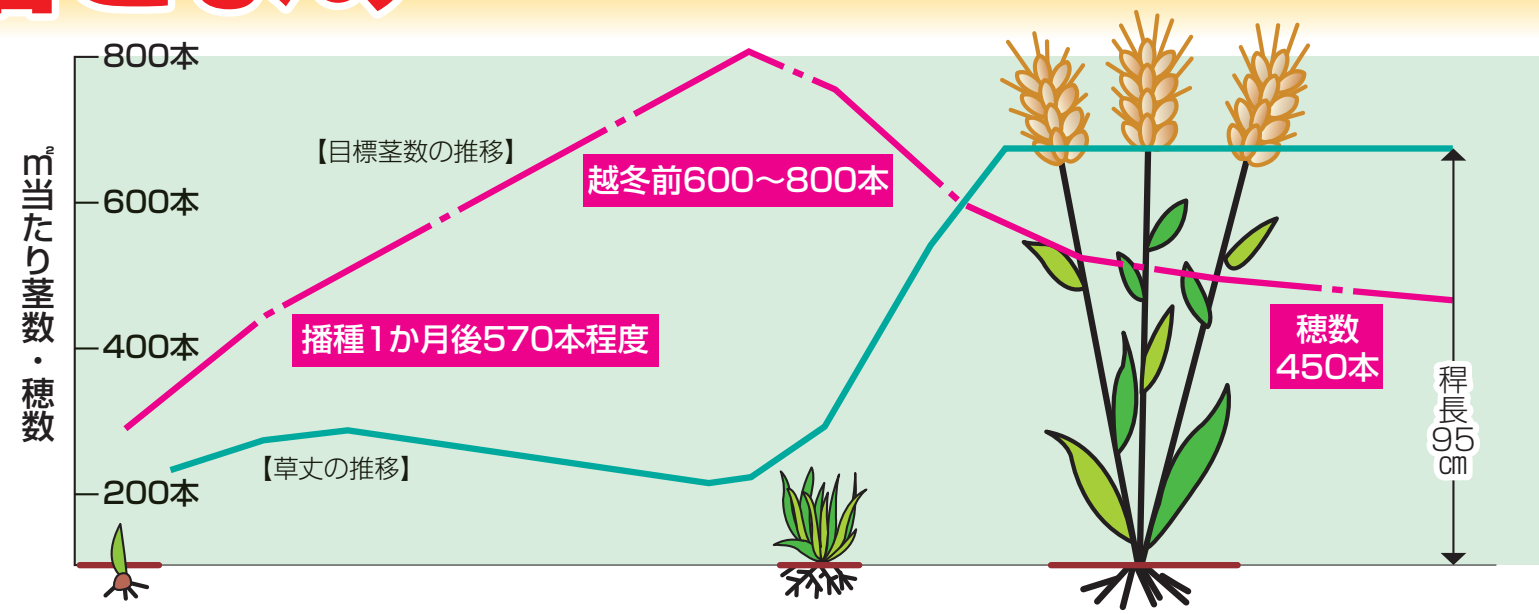


令和8年産 大麦栽培こよみ 高品質で、売れる大麦づくりを目指して！

令和7年9月
●射水市 ●JA いみず野
●射水市農業技術者協議会
●高岡農林振興センター

収量構成の 目安と品質目標	
収量	400kg/10a
穂数	450本/m ²
2.3mm以上	85%
千粒重	35g
硝子率	40%以下

初期生育確保の ためのポイント
1. 排水対策を徹底し 、 砕土率を高め、苗立 率を向上させる。
2. 播種時期に応じた適 正播種量を厳守。
3. 基準基肥量を守る。



【刈取りの目安】 子実水分23%

- 茎葉と子実の殆どが黄化
- 屈曲した穂の割合が50%程度になってから3日目頃

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
作業名	① 圃場選定 ② 排水対策	③ 土づくり ④ 種子の準備	⑤ 播種作業 ・ 耕起 ・ 砕土 ・ 播種 ・ 作溝 1日で完了する	⑥ 雑草防除 (除草剤の的確な使用)	⑦ 排水溝の手直し (随時実施)		⑦ 排水溝の手直し (融雪水の排水)		⑧ 赤かび病防除① (穂揃期) ⑧ 赤かび病防除② (1回目から1週間後)	⑨ 収穫・調製	⑩ 雑草管理

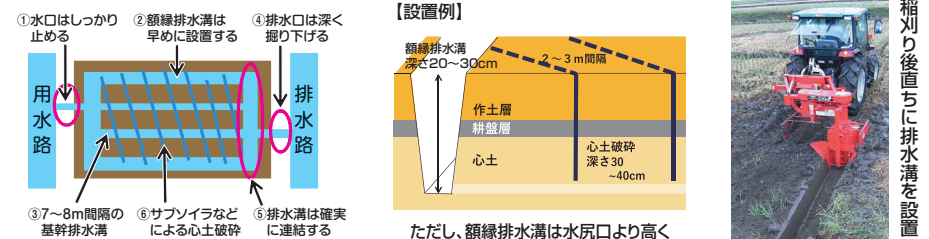
栽培管理のポイント

① 圃場選定

- 早生あとの作付を基本とする。
- コンヒカリあとに作付する場合、稲刈り後の土壌が速やかに乾くよう、水稻作付時期の溝掘りとその手直しを徹底する。

② 排水対策

- 枕地に水たまりができないように、前作水稻では田面が乾いた状況で収穫する。
- 稲刈後直ちに額縁排水溝や基幹排水溝の設置、心土破碎による排水対策を実施する。



③ 土づくり（土壌改良資材等の施用）

- 土壌 pH6.0～6.5を目標に耕起前に「土カパワー」を100～150kg/10a 施用する。
- 耕起前に「発酵けいふん」を100～150kg/10a 施用する。

④ 種子の準備（農協購入種子は消毒済み）

- 消毒済種子を使用し、病害の発生を防止する。

⑤ 播種作業（耕起・砕土・播種・作溝）

- 乾いた圃場から、順次播種を行う。
- 播種時に「エコ大麦44号」を40～45kg/10a 施用する。
- 基肥量や播種量は、播種時期に応じて調整する。
- 播種深土は3cm程度とする。
- 播種機にサイドリッジを付け、排水を促す。
- 雑草の多い圃場は、除草剤を散布する。

播種時期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量の目安 (10a当たり) ドリル播
9月26日～	140	6.0kg
10月上旬	150	6.5kg
10月中旬	200	8.5kg

※10月上旬まで播き終えましょう。



⑥ 雑草防除

- 土壌処理除草剤の効果が高めるため、砕土率の向上に努める。
- 雑草の種類や発生状況に応じ、効果の高い除草剤を的確に使用する。
- 圃場内に発生したカラスノエンドウやハマダイコン等は速やかに除去する。

散布時期	除草剤名	適用雑草	10a当り散布量	散布方法
播種後～麦2葉期 ※	リベレーターG	1年生雑草 (カラスノエンドウ カスノコグサ)	4～5kg 60～80mℓ (水100ℓに希釈)	全面土壌散布
播種後～麦3葉期 ※	リベレーターフロアブル			雑草茎葉散布または、 全面土壌散布
大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) 収穫45日前まで	エコパートフロアブル	1年生広葉雑草	50～100mℓ (水100ℓに希釈)	雑草茎葉散布または、 全面土壌散布

※カラスノエンドウが多い場合、「リベレーターG」は播種2週間後、「リベレーターフロアブル」は播種3週間後に散布する。

⑦ 排水溝の手直し

- 随時、排水溝の手直しを行う（特に11月下旬の降雪前、2月下旬の融雪期）。

⑧ 赤かび病の防除（赤かび粒の混入限度は0.0%）

- 開花状況を確認し、穂揃期（開花始め）とその7日後の2回防除を徹底する。
- 風の弱い時間帯を選ぶなど、周辺作物や住宅地への飛散防止に努める。

防除時期	1回目 穂揃期（開花始め）	2回目 1回目散布から1週間後
粉剤	トップジンM粉剤DL 4kg/10a	ワークアップ粉剤DL 3kg/10a
液剤	トップジンM水和剤1,000倍 150ℓ/10a	ワークアップフロアブル2,000倍 150ℓ/10a
空散	トップジンMゾル8倍 0.8ℓ/10a	ワークアップフロアブル16倍 0.8ℓ/10a

⑨ 収穫・調製

- 異種穀粒の混入を防止するためにコンバインの清掃を徹底する。
- 収穫前に、圃場からカラスノエンドウ等を除去する。
- 刈取りの目安は、子実、茎葉が完全に黄化し、屈曲した穂の割合が50%程度になってから3日目頃。
- JAの荷受けは、子実水分23%以下になってから。

⑩ 雑草管理

- 収穫後の圃場を放置するとカメムシの発生源となるので、大豆や園芸作物・緑肥等の作付けに努める。

大麦あとを有効活用し、大豆・園芸作物作付による収益確保、緑肥作付による土づくりを行いましょう。